

“考えてこそ療育”

🏆 活動（プログラム）計画

【お子さん（現在）を考えに考え抜く！】

曜日ごとの特性、領域のバランスを考えて、支援員それぞれがプログラムを計画しています。

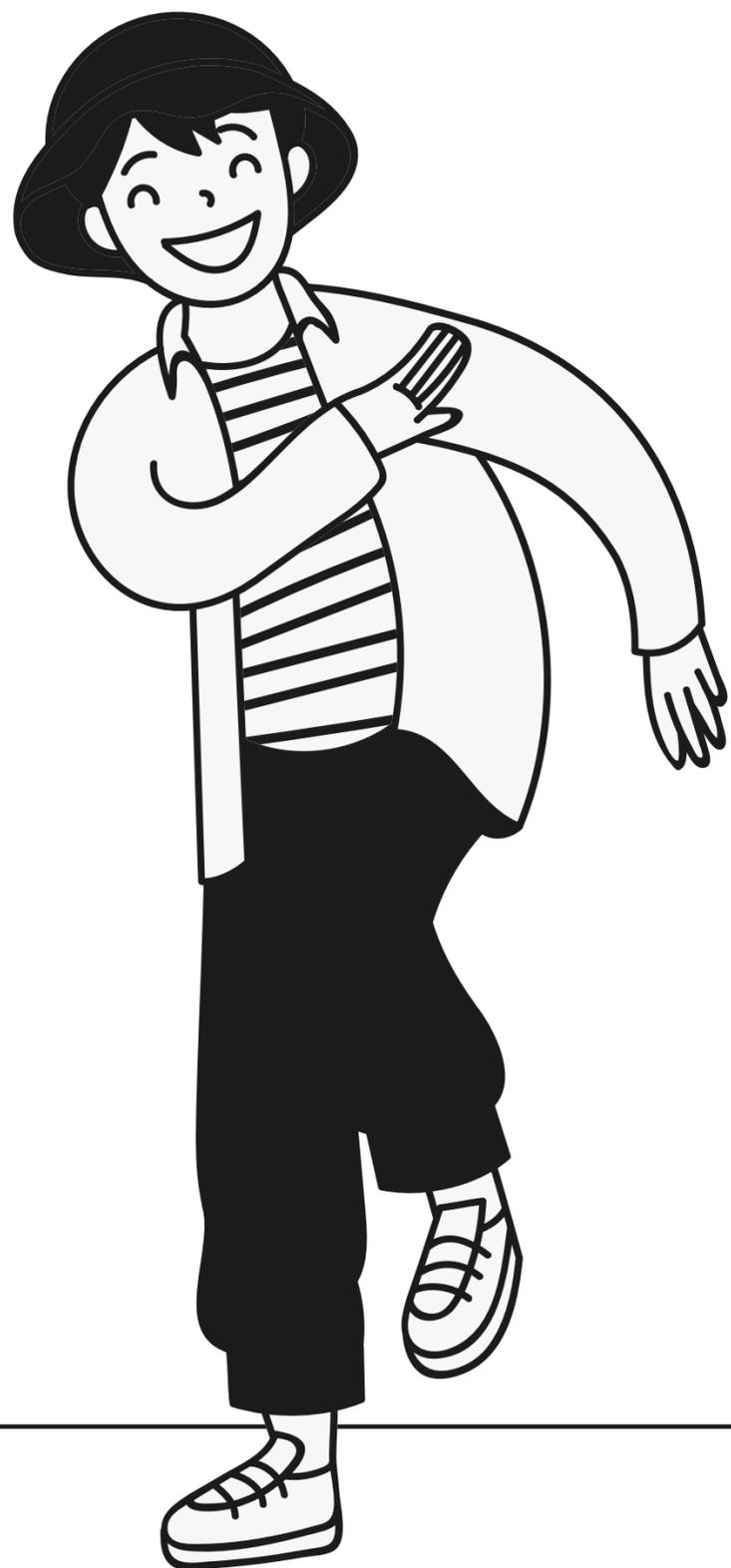
個別支援の必要性や、活動内での役割等、利用するお子さんそれぞれに目的と目標を持って作成します。

活動計画（例）

- ① 目的がなければ目標を掲げることはできません。
- ② アプローチする領域の設定
- ③ 利用するお子さんの特性から領域ごとの具体的な支援の確立
- ④ 一目で見て、誰にでもイメージできるように記載しています。
- ⑤ A～C（必要に応じてD）を設定
お子さんごとに落とし込む。
- ⑥ 特に導入に工夫を入れています。
ここがダメだと活動が失敗する。

活動プログラム・計画表（R6年度）		ASTEP長岡京 計画作成者：	26歳女性 児童指導員
日時	10月 18日		(金)
① 活動名(プログラム)	室内ゲーム:オセロリレー (目的:チームワーク / 正確な認知を養う)		
② 領域	ねらい	③ 具体的な支援	
① (イ)運動・感覚	⑦姿勢と運動・動作の基本的技能	児童が駒を正確に並べられるよう、視覚的な手掛かり(色の確認や順序の説明)を事前に行う。また、活動中に気持ちが高まりすぎないように、クールダウンの言葉かけやペースを調整するための合図を入れる。	
② (ウ)認知・行動	⑧認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	駒色の認識、チームメイトと協力しながら駒を正確に並べること。駒の順番や色を確認し、速さだけでなく正確さ、丁寧に意識向けできるよう、プレー中にも模範を示す。	
④ 活動の概要	オセロリレーは、運動と認知の要素を組み合わせた活動です。児童は2人1組のチームを組み、指定された色のオセロ駒を、テーブルから5m先のオセロ盤に正確に並べる競技を行います。駒を置いた後は再び駒の場所に戻り、次の駒を持って再度盤に向かう。(繰り返し運動)活動には、シャトルランのような体力と、色や順序を間違えないようにする認知力が必要であり、半分以上の駒を正確に並べることができるか?アセスメントを行うとともに、目標達成できるよう支援を行う。チームで協力し、スピードと正確さのバランスを図りながら、児童の動きを観察する。		
⑤ 活動の目標・最終評価 (Aから目標:高)	A	● 視覚的手がかりを活用して、自発的かつ正確に駒を配置し、スピードと正確さを両立させながら全工程を完了できる。活動全体を自発的に進め、他者の手助けなしで駒の順序や色を正確に判断。一定のスピードを維持しつつ、最終的に駒を正しい順序で並べられる。	
	B	● 他者とコミュニケーションを取りながら、駒の順序や色を正確に判断し、協力して効率的に作業を進めることができる。友達と声を掛け合いながら、駒の順序や色を確認。正確さを維持しつつ、スムーズな流れを保ち、協力して目標を達成することができる。	
	C	● 支援員の指示を受けて駒を正しい順序で配置し、動作を確実に実行できる。支援員のサポートを受けながら、駒の色と順序を1つずつ確認。間違いなく正確に駒を配置する基本的な動作を確実に実行することを目指す。	
活動の流れ【時間】		活動の内容	関わりの着意・安全管理等
導入	⑥ 16:15	活動の流れを視覚支援やデモンストレーションを使って説明し、児童にどのようにオセロ駒を運ぶかを実演する。児童に自チームの駒の色を確認させ、色や順序に注意を促す。具体的なゲームの進め方をわかりやすく伝える。	・各チームのペースや状況に応じて、必要に応じた声かけを行う。
展開	16:25	チームごとにオセロリレーを開始する。各チームが順番に駒を運び、指定された盤に正確に置くよう促す。支援者は必要に応じて声かけを行い、スピードと正確さのバランスを保つよう調整する。ペースが早すぎたりミスが多くならないよう、タイミングを見てチームの進行を確認する。盤の位置には支援員を配置して、丁寧に置くよう注意喚起するとともに、位置規制(手直し)を行う。	・活動中に児童が疲れたり、集中力が切れたりしないよう、適宜休憩を取り入れる。 ・床が滑らないように安全確認を行い、転倒防止のための準備をする。(レーンを表示し、中心にはコーンを設置:衝突防止)
まとめ	16:50	活動が終了した後、振り返りとして、各チームがどのように協力できたか、また正確に駒を並べられたかを話し合う。成功した点や次回の課題を話し合い、活動全体の感想を共有する。	活動を円滑に進められるよう、チームごとに明確なルール説明と視覚支援を用意する。





“考えてこそ療育”

🏆 個別支援計画

【お子さん（将来）を考えた考え抜く！】

ご利用開始にともない、個別支援計画をご提示します。

この計画はいわゆる“支援のロードマップ”です。

半年後、1年後のお子さんが、こんな姿になっている！と

ドキドキワクワクするような内容をご提示します◎



個別支援計画（例）

放課後等デイサービスASTEP		個別支援計画書			作成日: 2024年 10月 27日		
利用者氏名(児童氏名)	●● ●●	性別	男	計画作成者	児童発達支援管理責任者 水口 幸代	年齢	●歳
計画開始日	2024年 11月 1日	計画終了日		2025年 4月 30日			
① 家族及び本人の意向等 (望む生活)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをことばで表現してほしい。 ・個性を尊重して自分らしさを保ちながら社会で生きていく力をつけてほしい。 						
② 総合的な支援の方針	<p>総合的な支援方針として、情緒の安定と自己コントロールの向上を目指し、痲痺やいらだちが生じた際に深呼吸やカウントなどで気持ちを落ち着ける方法を身につけるサポートを行います。また、家庭や学校、アステップでの出来事を自ら話せるよう促し、ノートや絵を使って表現する機会を設け、自己表現力を育てていきます。ゲームの使用時間を守る習慣も支援し、他の楽しみを見つけられるよう、新しい活動を提案します。さらに、友だちとの関わりでは、トラブル時に「ごめんね」と伝えることで相手が安心することを理解し、相手の気持ちを考える練習を取り入れます。学習面では、授業中の集中力を高め、発言の適切なタイミングを学べるよう支援するとともに、服薬の有無での行動の違いを家庭と共有し、安定した学習環境を整えます。家庭・学校・アステップの連携のもと、安心して自己管理や自己表現に取り組める環境を目指します。</p>						
■ 到達目標							
③ 長期目標 (目安として1年以内の期間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 同年代の子どもに自分から話しかける、または他の子どもと短い会話(例:「今日は何をしたの?」など)を行い、自然なコミュニケーションができるようになる。 ● 支援者や友達が話しているときに最後まで聞くことを意識し、途中で発言を挟まずに待てるようになる。また、話を聞き終えたあとに「わかった」と応答するなど、聞き終わったことを示す姿勢が取れるようになる。 ● 週に1回、ゲーム以外の活動に集中して取り組む(例:外遊び、絵本を読む、パズルに取り組むなど)ことで、興味の幅を広げ、自分に合った楽しみを見つけられるようになる。 					支援の標準的な提供時間等 (曜日・頻度・時間)	
④ 短期目標 (目安として半年以内の期間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分から同年代の子どもに挨拶をしたり感謝の言葉を伝える他、簡単な質問(例:「今日何して遊ぶ?」など)のやり取りが見られるようになる。 ● 支援者や友達が話しているときに途中で話さずに待つ回数を増やし、話が終わった後に「わかった」と応答できるようになる。 ● 短い時間からゲーム以外の活動(例:絵本、工作、外遊びなど)に取り組み、その活動についての成果や反省を言語化できるようになる。 					週2回、平日は1.5～3時間、土・長期休暇時は5時間を上限として支援を行う。細部については個別支援計画(別紙)に示す。	

- ① ご家族の意向や願いが、計画作成に最も重要な部分です。遠慮なく胸の内をお話ください◎
- ② ご家庭の方針や考え方に沿って、ASTEPでの過ごしの中での支援方針をご提案します！
- ③ 1年後はこんなことができている！と心躍る内容をご提示できるよう支援員全員で考え抜きます★
- ④ 1年後の姿から逆算して、途中に置く目標です！スモールステップの積み重ねで、実現させていきます♪



個別支援計画（例）

② 【成長した姿】になれるように私たちが行う
具体的支援について（数・回数・時間等）

③

項目	① 支援目標(具体的な到達目標)	② 支援内容(具体的内容・支援の提供上のポイント・5領域との関連性等)	ガイドライン項目	達成時期	担当者 提供機関	留意事項 (本人の役割含む)
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用毎、支援者や友だちに対して、感謝の言葉(ありがとう)を自分から言えるようになる。 ※ ネガティブ→ポジティブな言葉を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 感謝を伝える状況の認識 1日の活動中に2回以上、支援者からの小さなサポート(教材を渡す、片付けを手伝うなど)を提供し、感謝の気持ちを感じる機会を増やします。 ● 感謝の言葉を発する練習 支援を提供した後に「何か言いたいことがあるかな?」と軽く促し、1日1回は「ありがとう」が出るように支援します。本人が「ありがとう」を言えた場合、その場で「今のありがとう、とても良かったね」とフィードバックを行い、次も頑張ろうと思えるよう促します。 	人間関係・社会性	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ●本人が「ありがとう」を自発的に言えた場合、その回数を週ごとに記録し、1週間で3回以上言えたら次のステップに進むことを考えます。
<p>① お子さんが【成長した姿】になっている！ と、イメージできるように💡</p>		<p>③ 支援を行う際の注意事項や 親御さんにご協力いただくこと</p>				
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲーム以外の新しい活動(アナログゲーム・制作等)に取り組むことで、さまざまな体験を増やし、自分の興味の幅を広げるとともに、ルールや役割に沿った言動・行動ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい活動の選択肢を提供 週に1回を基準に、●●くんの好みや興味に合わせて余暇活動の時間に、アナログゲームや制作活動を提案し、取り組みやすいよう(自己選択制など)サポートします。 ● 集団活動を含め、週に1回、アナログゲームや制作活動に、本人が興味を持っている友達や支援者が一緒に参加する場面を設け、協力して取り組む機会・経験を増やします。友達と活動をするときはルールを守る、役割分担を行うなどの流れを伝える。 ● ルールに柔軟に対応するスキル ルールの裏を突く行動に対して、本人の意見やアイデアを引き出し、ルールの改善案を考える機会を提供するとともに、「今日は〇〇のルールを優先してみよう」「この場面では△△を守るとどうなるかな?」など、具体的な場面での判断練習を都度行い、柔軟なルールの理解をサポートします。 ● ロールプレイによりルールの大切さを体感 ルールがない場合やルールを守らなかった場合の影響を本人が体験できるよう、支援者と一緒にロールプレイを行います。「もし〇〇のルールがなかったらどうなる?」といったシミュレーションを可能な限り場面の都度実施し、ルールがない場合の混乱や不公平感を体感する機会を設けます。 	言語・コミュニケーション	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ●週に1回、10分以上、新しい活動に集中して取り組み、活動後に「楽しかったところ」や「またやりたいかどうか」を伝える練習をします。 ●選んだルールを守る経験をし、ルールを守ったことでの体験を支援者に伝える。
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で状況に応じた行動(水分補給・衣服の着脱)を取れるように、リマインダーに反応し、学習前には集中しやすい環境を自ら整える習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間設定とリマインド 室内に入ったら、5分以内に水筒のお茶を飲んだり、暑さを感じた際に上着を脱ぐなどの行動を促す時間をタイマー等により設定します。 ● 学習に集中しやすい環境を整えるサポート 学習を始める前に、3分以内に姿勢を整える、机に必要なものだけを並べ、不要なものは片付ける支援を行います。また、宿題の開始後10分が経過した時点で、集中力が切れていないか、環境に散らかりがいかに確認し、集中しやすい環境が維持されているか支援者がチェックします。 	健康生活	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ●支援者が「暑いと感じたら上着を脱ぐと運動がしやすくなるよ」とメリットも伝える。 ●確認を受けた際に、自分が集中できているかどうかを振り返り、「今も集中できている」または「少し疲れてきた」と自分の状態を伝える。

※ お子さんがやってみて楽しいことや、チャレンジしたくなるような視点で考えていきます！